

平成 27～29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 31 日

研究者	氏名 高田研（代表） 田中夏子：	職位：教授	
	所属(学科等)：地域社会学科		
研究課題名	災害教育の推進に関わる総合的研究		
研究年度	平成 27 年度 から		平成 29 年度まで
研究費の種類	特別教育研究費	交付額	1,960,715 円
研究費の種類		交付額	円
研究概要等			
【研究概要】			
I 釜石被災地域調査 継続 報告書の製作			
<p>2011 年より片岸地区、釜石東部漁協管内、鶴住居と 3 冊の報告書を刊行しました。その後片岸地区と釜石東部漁協管内は合本されて地域復興 NPO によって数千部が増刷され、その冊子は現在、釜石を被災地体験ツアーとして訪問している中学校、高等学校生徒に対するボランティアガイドの手引きとしても使用されています。また釜石市の震災検証委員会において、この冊子は高い評価を受け、活用されました。</p> <p>被災地釜石復興の動きに大学として積極的に関与し、3 年間の聞き取りの実績をどのように教育に還元していくのかについての研究を 27 年度より 3 カ年計画ではじめ、田中夏子、小島 恵、富永貴公各先生にも参加いただき、通算 6 回の調査を実施し、80 歳から 90 歳の方々 33 名を対象に、半島での暮らしについて、ライフヒストリーに関する聞き取りを行い、報告書 2 冊を 29 年 3 月に刊行いたしました。</p> <p>また 29 年度はこれまでの調査を基にし、最後の調査で対象としなかった鶴住居地区において、震災当時の小、中学生、保護者、学校関係者調査を実施しました。昨年度報告者まで時間足らずで至らなかったため、その報告は 30 年に 6 冊目として最終刊行いたします。</p>			
II 災害教育の研究			
<p>本研究の成果は、災害時、被災地でのボランティア行動を通しての学習（災害教育）として日本災害教育研究センターや日本ボランティア学習協会機関紙への論文投稿や口頭発表を行ってきました。また仙台において開催された第 3 回国連防災世界会議の関連集会（災害教育）において、この「聴き取り調査」に参加した学生が、卒業後、全国の学校に赴任して、赴任校の防災教育を担う事例から教員養成課程における災害教育の重要性について報告致し、また災害支援で育つ若者たち～東北から広島、そして熊本へ～という論考を 『学</p>			

校社会文化論』降旗信一編著（2017）学文社（10-22頁）に寄稿しました。

また、徳島県立阿波高等学校では過去6年間、1年生全員に終日6時間の防災教育の研究授業を実施しました。

27年度は東日本大震災を仙台空港で被災した経験を持つ岩手県宮古市の本学学生（現久慈町小学校教員）による報告

28年度は熊本地震において、小学校に設置された避難所に1ヶ月間ボランティアとして参加した本学学生

29年度はNHKの報道などで「奇跡の学校」と呼ばれた釜石東中学に当時在籍していた学生、現4年生が事例報告をいたしました。

28年に発生しました熊本地震におきましては、本学学生サークルバーサスが2度にわたりボランティア活動に従事しました。29年度は富永、小島両名によって東牟田を中心に検証のための巡検を実施いたしました。

【学会発表、書籍収録等】

2017年3月：高田研，田中夏子 編著

NPO 法人釜石市東部漁協管内復興市民会議 発行

（以下2冊）

岩手県釜石市東部漁協管内『東日本大震災に関わる聞き取り調査報告書』 震災以前の漁業集落生活史

大震災と暮らし・地域の再建-経験を出し合い、生かし合うためにー
柏崎龍太郎氏インタビュー記録）（2011年8月～2017年1月）

2017年3月：高田研，「災害支援で育つ若者たち～東北から広島、そして熊本へ～」降旗信一編著，持続可能な地域と学校のための『学習社会文化論』学文社 所収

2017年9月：環境教育学会全体会、シンポジウムにおいて、災害教育の報告。